

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700293		
法人名	日本システムサービス 株式会社		
事業所名	グループホームいきいき岩見沢		
所在地	岩見沢市志文町1180-47		
自己評価作成日	平成23年6月21日	評価結果市町村受理日	平成23年8月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoicho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700293&amp;SCD=320">http://system.kaigoicho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700293&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成23年7月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郊外の自然環境に恵まれ景色の良い場所にホームがあり、地域交流が盛んで、地域行事、老人クラブなど積極的に参加し、地域の一員として心穏やかに、いきいきと自分らしく、それまでの暮らしの延長となる様取り組み、職員は入居者の自己決定を基本にする事に取り組んでいる。

小高い丘を開発した住宅街で、3・4階建てのアパートが大半を占めている。「いきいき」は、この団地の一番奥にあり、その先の白樺の林の向こうは遊戯施設とスキー場のあるグリーンランドに隣接している自然に恵まれた閑静な処にある。旧アパートの転用で、1階は駐車場、2階に4室、3階に5室配置されている。入口の階段に座席リフトを設置し、やや急な階段の解消に備えている。利用者の希望を受けて、朝夕の散歩で会館まで歩き、途中の路上清掃や公園の雑草取りをしている。常にいきいきと体を動かし、自分らしさを発揮できるように、職員も前向きに支援している。地域の行事に積極的に参加して、地域の一員として認められつつある。強制しない「待つ」ケアは、自己実現の気持ちや拘束からプライバシーの基本に結びついている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で作り上げたケア理念は「利用者がいきいきと自分らしく生活をする」事を大切に、日常の支援に努力し、地域とのかかわりの中で「外部からの刺激を貰う」事でサービスの向上に努め、理念の実践につなげている。	入口に額に入れたケア理念が掲げられて、利用者・職員・訪問者は必ず目にするようになる。常にいきいきと体を動かし、自分らしさを発揮できるように、職員も前向きに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、利用者・職員共に行事に参加している。路上やごみステーションの清掃、公園の草取り、夏祭りから敬老会にも参加することで、事業所が地域の一員としてのつながりが出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内集会などに積極的に参加しグループホームの存在と理解を得つつある。ホームで行っている支援の仕方や高齢社会の諸問題点については、地域の中での情報提供はこれからの課題と考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価及び外部評価の内容も運営推進会議の議題として話し合い、会議で提案を受け夜間を想定した火災訓練のアドバイスがあり、消防職員立会いで行った。	市の介護保険課、支援センター、民生委員や生活保護課の職員等が出席し、保護世帯への取り組みの状況などについて示唆を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者及び職員が月1～2回市の介護保険課や包括支援センターを訪問しGMの現状の情報収集や東北地方の被災者の受け入れの相談やホームのヒヤリハットなどの状況報告を行い、協力関係強化に取り組んでいる。	行政との情報交換は密に行っている。外部研修の予定や新規職員の採用やヒヤリハットの対応についても指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意義を理解する為繰り返し、外部研修及び内部研修(DVD)や資料などで熟知しケアに取り組んでいる。	職員は、身内のケアの意識で、否定的な言動を慎み、どのような行動が拘束になるのか、常に話し合いをし、利用者が自由に安心して過ごせるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止マニュアル」を整備し、どのような行為が虐待になるのか、ミーティングでも常に引き上げ、職員の気づきに注意を払っている。「待つ」のケアをモットーにし、ゆとりあるケアに努めている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度は包括支援センターの社会福祉士の資格を持つ講師を招き、学習会を持ち、全職員で共有し、日常の関係作りにも努めている。成年後見制度については、情報を収集し研修の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明には、時間を掛け十分に行っている。「契約書」の他に「重要事項説明書」で本人・家族・関係者に判りやすく説明して、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員が窓口となり対応に努めている。玄関にアンケート用紙を備え、6項目に○印で簡単に記入するよう工夫しているが、これまで家族からの意見・要望の投書は無かった。	独身の利用者が多く、家族はいても遠距離のため家族会は組織できない。会報の「しらかば」を送付して、近況を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで管理者を交えて話し合う場を設けている。「何でもノート」を用意し、無記名で何でも書けるよう対応している。	常に職員と交流を持ち、意見等を聞く機会を作って運営に反映させている。ここ1年若い新人の定着が薄く、職員の年代も高くなり運営に苦慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの経験とレベルを把握し、やりがいや向上心を発揮できる環境の整備に努めている。しかし、給与や勤務条件にはやや厳しい状況と認識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの質の向上に、採用時研修から、1ヶ月以内や経験年数に応じた各種研修の機会を設けている。職員の希望を取り入れて、年間予定を立てているが、職員の異動もあり、内部研修を重点的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この時期まだ同業者と交流は行っていないが交流を持ちたいと考えている。同じ法人のGHが上砂川にあり、人的な交流を企画したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より数回本人と話し合いを持ち、入居後の不安の解消に努めている。ショートステイも可能で、事前に利用者同士の良い関係作りも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来訪を受け、施設の玄関から居室・リビングでの利用者の様子を見聞きし、屋内・外の環境雰囲気を肌で感じながら、家族の意見要望を受けとめ職員との関係づくりに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族や関係者の意見、要望を考慮し必要な支援を確認している。かかりつけ医や馴染みの場所・知人への外出にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の主体性を大切にし、職員も仲間の一人として暮らしを共にする事に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より通信や来訪時に、日常生活の様子をお知らせし、時折々に家族も参加する焼肉パーティなどを設け、職員と共に支援に努める関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしている場所やこだわりの生活歴を大事にする支援に努めている、また来客者の宿泊希望を受け入れる態勢を備えている。友人・知人への訪問や墓参の希望の送迎に努めている。	花見や秋の紅葉狩りなど自然に触れる外出が主である。お寺・墓参りの送迎支援をしている。馴染みの知人・友人が減り、こだわりの場所に行くことも少なくなった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活から利用者同士の関係を把握し孤立しないよう、作業時、外出時に職員が中に入って、お互いに共通の話題を取り上げて、利用者同士の関わりを持てるように努めている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後家族と時々連絡をとり、相談に乗って情報提供を行い、必要に応じ家庭訪問を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、野外散歩やお茶の時間に会話をし、各居室に職員が訪室し、希望・意向の把握に努めている。言葉で表現できない利用者には、身振り・手振り・目配せから真意を汲み取っている。	散歩・毎食事後に、「これからどうする?」と、一人ひとりに声掛けをし、意向に沿うよう努めている。利用者のこれまでの趣味・趣向を振り返り、毎日のレクやリハビリに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人・家族・ケアマネジャーや知人から情報収集し、暮らしのパターンやケアサービスを把握し、施設での暮らしにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活パターンを把握し、一日の過ごし方や心身の変化や更に残存能力を動きや表情の変化で把握する事に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、関係者との話合う機会を設け、定期的に設けているカンファレンス、ミーティングなどで意見やアイデアを出し合い、現状に即したケアプランを作っている。	家族、介護保険課、支援センターやケアマネとも協議をして、6ヶ月ごとの見直しをしている。変化が見られる時は、その都度ミーティングで、計画の変更を行い、家族等・関係者に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録、アセスメントを記録し、さらに個人別支援用紙に詳細に絵図も交えて担当外職員が見てもわかるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できないかかりつけ医の受診は、職員が同行し診断結果についても丁寧に報告している。冬の外出は大型店に出向き、買い物兼ねて散歩や外食を楽しむよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターからは権利擁護や身体拘束の学習の支援を受け、消防署からは年2回の消火・避難訓練からAEDの実習をし、地域資源との協働を広げ、豊かな暮らしにつなげたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望によりかかりつけ医に受診している。受診は原則として家族が行うが、職員が送迎を行うこともある。協力医療機関とは24時間連絡が取れ、安心して医療が受けられるよう支援に努めている。	かかりつけ医の受診は、原則家族が行うことになっている。若い時の労災事故で一人は今も家族が送迎しているが、他の利用者は職員が送迎支援し、これまでのかかりつけ医から近くの協力医に変わりつつある。	

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、協力医療機関から病状の把握と適切な報告の手引きの訓練を受け、病変時の指示を仰ぎ適切な対応をしている。利用者の高齢化に伴い、正規看護師の採用に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と密に情報交換を行い早期退院への支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から事業所で出来る事、出来ない事の説明は十分に行っている。また状況に応じた情報を家族に提供している。看取りはこれまでに一人経験した。ターミナルケアには、職員の更なるレベルアップと専門家が重要で、今後の課題と認識している。	入所の時に終末期の支援について説明をしている。医療行為が必要になり、職員に対応する専門家がいないので、重症化したときは、提携医院へ入院の対応となっている。	職員は終末期の在り方や尊厳死について十分な知識を習得することが求められている。早い段階から職員、利用者、家族等と話し合いを行い、共通理解に立ち、提携医の協力・支援が得られる体制づくりを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1度救急救命講習を受け、全職員が実践力を身に付けている。AEDの研修で、認定証を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域災害対策(我が町を知ろう)の研修会に地域の方、利用者、職員が一緒に参加して、避難誘導には地域との協力体制を築きつつある。	スプリンクラーは昨年7月に設置した。消防署の指導で避難訓練を行った。歩行困難者には、布団引きの訓練も行ったが、階段の降下はできなかった。階段を使つての外への避難は困難と指摘され、全員居室の窓からベランダに出るよう指導を受けた。救助隊を待つことになった。	避難には地域の住民の支援が必須で、地域住民の協力と支援が得られる取組を望む。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳＝相手の自主性を念頭に日頃より、使つてはいけない言葉、トイレの声掛けも羞恥心を考慮し「秘密の場所に行きましょう」と耳元で声掛ける事に努めている。	職員は自分の親に接するように、優しい言葉掛けをしている。してはいけない・それは駄目といった否定語を使わず、しましょう。と言つて、自分で判断するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様残存能力に合わせ、絵文字やジェスチャーなどで希望・意向の把握に努め本人本位の生活が出来る様支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「待つ」介護を合言葉に一人一人のペースに合わせ希望に添った暮らしが出来る様支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を尊重し、美容室、衣類購入など「おしゃれ」にも気を使うようお手伝いしている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より、個別に好みを把握し、職員と一緒に調理、配膳、片付けを毎食行っている、又月1～2度外食を楽しんでいる。	利用者全員に声掛けをし、楽しい雰囲気作りに努めている。急がせることなく、本人のペースで食している。食後は各自食器を台所に運んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣、状況、好みに合わせ、刻み、野菜ジュース、お茶など栄養バランスや水分確保は個別に対応している。関係会社の管理栄養士に指示を受けて、栄養とカロリーの指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科主治医と情報交換を行い、本人のこれまでの習慣を大事にし、毎食後の洗浄は数人が行っている。就寝前の義歯洗浄、消毒は全員行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮し、誘導、声掛けを行い、排泄リズムを把握し、個別対応に努めている。夜間の歩行で転倒する事故が発生し、ポータブルを置いているが、いまだ使用していない。	自立者が多く、排せつのパターンを記録し、時間を見て、声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時のお茶、朝食時の牛乳、ヨーグルトの摂取や毎日の朝夕の散歩、ラジオ体操などで便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、日時に配慮しその時の身体状況に合わせて、介助の程度や有無を見極め安心してゆっくり入浴を楽しんでもらうよう間近で見守りをしている。	原則週2～3回の入浴となっているが、散歩で汗をかいた時は、希望に応じている。入浴介助を必要とする利用者は2人で、職員の見守りを受けながらゆっくりと楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の能力に応じて、清掃作業や野外の散歩後は、施設入口にテーブル・椅子を設置し、そこでお茶・コーヒーの休憩タイムを楽しんでいる。内ではレクリエーションを行い、常に体を動かしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬剤師が来訪され、副作用や対応の説明があり、また医療ノートを作成し情報を共有し、症状変化に気付く工夫を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活習慣に合わせて、日常的に楽しむよう、喫煙、飲酒、おやつなどの気分転換などの支援を行っている。		

グループホームいきいき岩見沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参り、喫茶店、外食に出掛けたり、地域の方や家族の協力を得てお花見などに出掛けている。	町内の散歩は日常的に行っており、個々の希望で外食に行ったり、お寺・墓参りの送迎の支援もしている。冬は大型店で散歩を兼ねて買い物もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭出納簿で管理している利用者もいる。ホーム管理は支払い時にお金を本人に渡し、自分が払ったという意識を持ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルで通話の設定を行い、プライベートに配慮し居室で話ができるよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光に気配りし、カーテンなどでために調節を行っている。また入口に観葉植物やリビングに季節の花など飾り心地良く過ごせるよう工夫をしている。	食堂兼居間はゆったりした空間になっている。男性の利用者が多く、壁に貼る飾り物は少ないが、職員手作りの切り絵や季節の草花で和ませている。トイレ・浴室はプライバシーを確保し居心地よく利用できる。洗濯物は居室のベランダで干し、他人の目に触れないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれる場所として、リビングにテーブル・椅子のあるスペースを配置し、野外の玄関前にはにテーブル・ベンチを用意し、外の空気と自由に触れる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より本人の使い慣れた家具、食器を使い、家族と相談しながら家具配置をし、心地良く落ち着いて過ごせる様工夫をしている。	居室には使い慣れたテレビや仏壇などを持ってきて居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ誘導標、階段などに歩行時の足元注意書き、動線を広くし物を置かない、配置場所を変えないなどの安全な環境作りに努めている。		